様式第2号の1-①【(1)実務経験のある教員等による授業科目の配置】

※大学・短期大学・高等専門学校は、この様式を用いること。専門学校は、様式第2号の1-②を用いること。

学校名	明治薬科大学
設置者名	学校法人 明治薬科大学

1. 「実務経験のある教員等による授業科目」の数

学部名	学科名	夜間・通信制の場合	実務経験のある教員等による授業科目の単位数				省令で定める基準単位数	配置困難
			全学共通科目	学部等共通科目	専門科目	合計		
薬学部	薬学科	夜・通信		26	64.5	90.5	19	
	生命創薬科学科	夜・通信			27	53	13	
		夜・通信						
		夜・通信						
(備考)								

2. 「実務経験のある教員等による授業科目」の一覧表の公表方法

https://syllabus.my-pharm.ac.jp/2025/jitumu.pdf

3. 要件を満たすことが困難である学部等

学部等名
(困難である理由)

様式第2号の2-①【(2)-①学外者である理事の複数配置】

※ 国立大学法人・独立行政法人国立高等専門学校機構・公立大学法人・学校法人・準学校法人は、この様式を用いること。これら以外の設置者は、様式第2号の2-②を用いること。

学校名	明治薬科大学
設置者名	学校法人明治薬科大学

1. 理事（役員）名簿の公表方法

ホームページ上で公開している。
 (<https://www.my-pharm.ac.jp/koho/oi/organization/>)

2. 学外者である理事の一覧表

常勤・非常勤の別	前職又は現職	任期	担当する職務内容 や期待する役割
非常勤	医療法人社団従業員 (現職)	2023. 11. 19 ～令和9年度 の定時評議員会 の終結の時	収益事業
非常勤	有限会社代表取締役 (現職)	2023. 11. 19 ～令和9年度 の定時評議員会 の終結の時	人事
(備考)			

様式第2号の3 【(3)厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表】

学校名	明治薬科大学
設置者名	学校法人明治薬科大学

○厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表の概要

<p>1. 授業科目について、授業の方法及び内容、到達目標、成績評価の方法や基準その他の事項を記載した授業計画書(シラバス)を作成し、公表していること。</p>	
<p>(授業計画書の作成・公表に係る取組の概要)</p> <p>(1) 授業計画の作成過程</p> <p>【科目責任者】</p> <p>a) 教育目的・ディプロマ・ポリシーと関連した教育目的を設定する。 b) 学習到達目標・学生が習得する知識や技能の具体的な到達目標を設定する。 c) 授業分担者・授業担当者を選定し、授業分担を決定する。 d) 授業内容・授業内容、準備学習(予習・復習)、使用教材などを決定する。 e) 課題(レポート・試験等)のフィードバック及び成績評価方法の設定基準や配分割合を設定する。成績評価がクラス毎に適正・公平に行われるよう注意する。</p> <p>○上記を行う過程で、必要に応じて授業担当者を招集し協議を行う。</p> <p>【分野責任者】</p> <p>a) 科目責任者が作成した授業計画を主に以下の5点について確認する。 ①大学の各種ポリシーに基づいた内容であること。 ②シラバスの必須項目がすべて記載してあること。 ③授業内容が薬学教育モデル・コアカリキュラムに準拠していること。 ④授業内容が科目間で過度に重複していないこと。 ⑤教科書、参考書の指定が適切であること。 b) 担当分野の科目間で、授業内容に重複がないかを確認する。</p> <p>○授業計画に改善が必要と思われる場合は科目責任者に改善を命じ、必要に応じて科目責任者を招集し協議を行う。</p> <p>※完成した全ての科目の授業計画について、教務正副委員長により最終チェックがおこなわれる。</p> <p>(2) 授業計画の作成・公表時期</p> <p>1 1月 : 分野責任者、科目責任者、授業分担者 の決定 1 2～2月 : 授業計画の策定と第三者(教務正副委員長)による最終チェック 3月 : 授業計画 完成 4月 : 各学年オリエンテーションにて冊子体を配布及びホームページ掲載</p>	
授業計画書の公表方法	<p>本学ホームページ、履修の手引き(シラバス)で公表 http://syllabus.my-pharm.ac.jp/2025/y1.html</p>

備考 この用紙の大きさは、日本産業規格A4とする。

2. 学修意欲の把握、試験やレポート、卒業論文などの適切な方法により、学修成果を厳格かつ適正に評価して単位を与え、又は、履修を認定していること。

(授業科目の学修成果の評価に係る取組の概要)

「教育課程及び履修方法等に関する規程」に基づき、授業計画に設定された成績評価方法を用い、厳格かつ適正に評価している。

○学生からの質問等に関しては、講義中に受け付けるとともに、オフィスアワーも実施して対応している。

○成績評価については、「項目別配点表」を作成して項目別の得点を把握している。さらに講義資料や試験問題等もエビデンスとして保管している。

○事前実務実習では、学生の自己評価（概略評価）を実施しており、実際の成績と自己評価を比較することにより、項目別の修得状況をより具体的に把握できる仕組みを導入している。卒業研究においても、日々の研究状況、発表会や卒業論文等から、ルーブリック評価により適正に評価している。なお、レポートや試験などのフィードバック方法や成績評価の方法については、毎年4月に学生に配布している冊子体【履修の手引き（シラバス）】及びホームページ上にて公表している。

3. 成績評価において、GPA等の客観的な指標を設定し、公表するとともに、成績の分布状況の把握をはじめ、適切に実施していること。

(客観的な指標の設定・公表及び成績評価の適切な実施に係る取組の概要)

あらかじめ設定されている以下の方法でGPAを計算している。なお、GPAについては、冊子体【履修の手引き（シラバス）】及びホームページ上にて公表している。

① それぞれの科目（自由科目、認定科目、履修取消科目を除く）で得られた評価をGP（Grade Point）に置き換え、それぞれの単位数を掛ける。

評価：評点	GP
S：90～100	4.00
A：80～89	3.00
B：70～79	2.00
C：60～69	1.00
D：59以下	0.00
K：欠席	0.00
X：受験資格なし	0.00
N：認定科目	計算対象外

② 履修登録された全科目（自由科目、認定科目、履修取消科目を除く）の単位数の合計を求める。

③ $GPA = \frac{\text{①の総和}}{\text{②}}$

※小数点第3位以下は切り捨て、小数点第2位まで表記する。

客観的な指標の
算出方法の公表方法

本学ホームページ、履修の手引き（シラバス）で公表
<https://syllabus.my-pharm.ac.jp/2025/y1.html>

4. 卒業の認定に関する方針を定め、公表するとともに、適切に実施していること。

(卒業の認定方針の策定・公表・適切な実施に係る取組の概要)

<薬学科のディプロマ・ポリシー (学位授与方針) >

薬学科の教育目標は、次に示すような能力を備えた医療の担い手としての質の高い薬剤師の養成です。

この目的を達成するために編成されたカリキュラムを履修し、卒業に必要な単位を修得した者に対して、卒業を認定し、「学士 (薬学)」の学位を授与します。

1. 医療人としての人間力、倫理観、社会的使命感の形成

医療人としての社会的使命感を強く自覚し、豊かな人間力と倫理観を持って、薬剤師の職能を発揮できる能力を修得している。

2. 薬剤師に必要な専門分野の知識・技能・態度の形成

患者の病態に応じた薬物治療を総合的に評価し、安全性・有効性を確保する能力および衛生分野 (環境衛生、栄養・食品衛生、公衆衛生) において薬剤師に必要とされる能力を修得している。

3. コミュニケーション能力と人間関係構築のための能力の形成

多様な背景を持つ人々との良好な関係を築き、情報を的確に伝達し、豊かな人間関係を構築する能力を有している。

4. 多職種で医療連携できる能力の形成

社会において他の医療人と連携し、健康・福祉の維持・増進、公衆衛生の向上に貢献する能力を有している。

5. 研究的思考と問題解決能力の形成

医療・薬学に関わる問題を発見し、科学的な探求心を持って論理的・批判的な視点から解決策を提示できる能力を有している。

6. 自己研鑽と学ぶ姿勢の形成

医療や薬学の進歩に対応し、自らの適性に応じた領域を選び、持続する向上心と探究心を生涯維持し、薬剤師として生きる姿勢を有している。

<生命創薬科学科のディプロマ・ポリシー (学位授与方針) >

将来さまざまな生命関連職種で必要となる次に示すような基本知識・技術・態度を適切に身に付け、卒業に必要な単位を修得した者に対して卒業を認定し、「学士 (薬科学)」の学位を授与します。

1. 創薬化学分野の基礎学力を身につける。

2. 生命科学分野の基礎学力を身につける。

3. 創薬科学に関わるために必要となる医療薬学の素養を身につける。

4. 幅広い学問分野の素養を身につけ、強い探究心と洞察力を養う。

5. 論理的思考に基づく知識の応用の仕方を学び、発想力と独創性を涵養する。

卒業の認定に関する
方針の公表方法

本学ホームページ、履修の手引き (シラバス) で公表
<https://syllabus.my-pharm.ac.jp/2025/y1.html>

様式第2号の4-①【(4)財務・経営情報の公表(大学・短期大学・高等専門学校)】

※大学・短期大学・高等専門学校は、この様式を用いること。専門学校は、様式第2号の4-②を用いること。

学校名	明治薬科大学
設置者名	学校法人明治薬科大学

1. 財務諸表等

財務諸表等	公表方法
貸借対照表	本学ホームページ https://www.my-pharm.ac.jp/koho/oi_financial.html
収支計算書又は損益計算書	本学ホームページ https://www.my-pharm.ac.jp/koho/oi_financial.html
財産目録	本学ホームページ https://www.my-pharm.ac.jp/koho/oi_financial.html
事業報告書	本学ホームページ https://www.my-pharm.ac.jp/koho/oi_financial.html
監事による監査報告(書)	本学ホームページ https://www.my-pharm.ac.jp/koho/oi_financial.html

2. 事業計画(任意記載事項)

単年度計画(名称:)	対象年度:)
公表方法:	
中長期計画(名称:)	対象年度:)
公表方法:	

3. 教育活動に係る情報

(1) 自己点検・評価の結果

公表方法: 本学ホームページ(大学概要▷情報公開▷自己点検・評価) https://www.my-pharm.ac.jp/koho/oi/scsa/
--

(2) 認証評価の結果(任意記載事項)

公表方法: 本学ホームページ(大学概要▷情報公開▷自己点検・評価) https://www.my-pharm.ac.jp/koho/oi/scsa/
--

(3) 学校教育法施行規則第 172 条の 2 第 1 項に掲げる情報の概要

①教育研究上の目的、卒業又は修了の認定に関する方針、教育課程の編成及び実施に関する方針、入学者の受入れに関する方針の概要

学部等名
教育研究上の目的（公表方法：本学ホームページ、履修の手引き（シラバス） https://www.my-pharm.ac.jp/koho/oi/gakusoku/ ）
（概要） <薬学科> 社会の要請に応える医療の担い手としての高い倫理観と薬学知識を持ち、他の医療職と協働できるコミュニケーション能力と生涯にわたる自己研鑽能力を持つ薬剤師を育成すること、薬学・医療の進歩に資するための研究意欲と問題発見・解決能力を身につけた人材を育成することを目的とする。 <生命創薬科学科> 生命科学と創薬化学の分野の確かな基礎学力と研究能力を身につけ、多様な分野で社会貢献できる人材を育成することを目的とする。
卒業又は修了の認定に関する方針（公表方法：本学ホームページ、履修の手引き（シラバス） https://www.my-pharm.ac.jp/koho/policy/ ）
（概要） <薬学科のディプロマ・ポリシー（学位授与方針）> 薬学科の教育目標は、次に示すような能力を備えた医療の担い手としての質の高い薬剤師の養成です。 この目的を達成するために編成されたカリキュラムを履修し、卒業に必要な単位を修得した者に対して、卒業を認定し、「学士（薬学）」の学位を授与します。 1. 医療人としての人間力、倫理観、社会的使命感の形成 医療人としての社会的使命感を強く自覚し、豊かな人間力と倫理観を持って、薬剤師の職能を発揮できる能力を修得している。 2. 薬剤師に必要な専門分野の知識・技能・態度の形成 患者の病態に応じた薬物治療を総合的に評価し、安全性・有効性を確保する能力および衛生分野（環境衛生、栄養・食品衛生、公衆衛生）において薬剤師に必要とされる能力を修得している。 3. コミュニケーション能力と人間関係構築のための能力の形成 多様な背景を持つ人々との良好な関係を築き、情報を的確に伝達し、豊かな人間関係を構築する能力を有している。 4. 多職種で医療連携できる能力の形成 社会において他の医療人と連携し、健康・福祉の維持・増進、公衆衛生の向上に貢献する能力を有している。 5. 研究的思考と問題解決能力の形成 医療・薬学に関わる問題を発見し、科学的な探求心を持って論理的・批判的な視点から解決策を提示できる能力を有している。 6. 自己研鑽と学ぶ姿勢の形成

医療や薬学の進歩に対応し、自らの適性に合った領域を選び、持続する向上心と探究心を生涯維持し、薬剤師として生きる姿勢を有している。

<生命創薬科学科のディプロマ・ポリシー（学位授与方針）>

将来さまざまな生命関連職種で必要となる次に示すような基本知識・技術・態度を適切に身に付け、卒業に必要な単位を修得した者に対して卒業を認定し、「学士（薬科学）」の学位を授与します。

1. 創薬化学分野の基礎学力を身につける。
2. 生命科学分野の基礎学力を身につける。
3. 創薬科学に関わるために必要となる医療薬学の素養を身につける。
4. 幅広い学問分野の素養を身につけ、強い探究心と洞察力を養う。
5. 論理的思考に基づく知識の応用の仕方を学び、発想力と独創性を涵養する。

教育課程の編成及び実施に関する方針（公表方法：本学ホームページ、履修の手引き（シラバス）<https://www.my-pharm.ac.jp/koho/policy/>）

（概要）

<薬学科のカリキュラム・ポリシー（教育課程の編成・実施の方針）>

薬学科のディプロマ・ポリシー（学位授与方針）に掲げる目標を達成するために、以下の方針に従い教育課程を編成し、実施します。学修にはアクティブ・ラーニングを取り入れ、学生が主体的に学ぶ姿勢を身につけ、問題解決能力や他者との協働する力を養成します。

1. 医療人としての人間力、倫理観、社会的使命感の形成

医療従事者としての社会的責任を自覚するために、1年次から医療現場での早期体験学習を実践し、また学年の進行に伴い倫理観および国際感覚を育むための授業科目を配置する。

2. 薬剤師に必要な専門分野の知識・技能・態度の形成

「社会と薬学」、「基礎薬学」、「医療薬学」、「衛生薬学」の領域において薬剤師に必要な専門分野の基本的な知識・技能を修得するための授業科目を配置する。また、主として1～3年次に修得した専門分野の知識・技能に基づいて、4年次以降では薬物治療の実践力を育むために臨床情報の収集、解析・評価能力を修得するための授業科目、事前実務実習、及び薬学実務実習を配置する。

3. コミュニケーション能力と人間関係構築のための能力の形成

1年次から、ロールプレイやケーススタディを通じて基本的なコミュニケーションスキルの修得を図る。学年の進行に伴い、医療現場での患者や他の医療従事者とのコミュニケーションにおいて、的確で明確な情報伝達ができる能力を育成する。

4. 多職種で医療連携できる能力の形成

1年次より早期体験学習を通して地域および多職種における薬剤師の役割を理解するための授業科目を配置し、学年の進行に伴いより実践的な授業科目を配置する。

5. 研究的思考と問題解決能力の形成

1～3年次の演習・実習で修得した能力に基づいて、4年次で薬学の専門性を深化させるための卒業研究を実践する。また5年次では自身が選択するコース特別実習・演習において問題解決能力の修得を実践する。

6. 自己研鑽と学ぶ姿勢の形成

医療、情報、科学技術の進展に対応するためには、生涯を通じて自己研鑽が必要であることを認識する基盤を築く必要がある。そのために、卒業研究、コース特別実習・演習、各種実習・演習を通じて、自己研鑽に取り組む姿勢を育む。

<生命創薬科学科のカリキュラム・ポリシー（教育課程の編成・実施の方針）>

生命創薬科学科は、「生命科学分野と創薬化学分野の基礎学力」、「創薬科学に関わるために必要な医療薬学的素養」、及び「幅広い学問分野の素養」を身につけ、強い探究心と洞察力を養うことに加え、論理的思考に基づく知識の応用の仕方を学び、発想力と独創性を涵養する独創性豊かな創薬科学者及び高度な技術を有する技能者を育成することを教育目標としています。

本学独自のカリキュラムは、少人数制の行動型授業により高いコミュニケーション能力を養うとともに、多種多彩な研究体験を通して論理的思考力を伸ばせるように、生命科学や創薬研究を基盤にした連動性に優れており、将来大学院への進学を目指す学生にも対応しています。

○1、2年次の基礎教育

大学への導入教育、人間形成に必要な教養科目を履修するとともに、生命科学と創薬化学の基礎科目を重点的に履修します。また、少人数制の能動的演習科目により確実な基礎知識と積極的な学修態度を身につけることができるようにカリキュラムを編成しています。

○3年次の専門教育

生命科学と創薬化学の専門科目、医療・衛生科目を履修するとともに、生物系研究室、化学系研究室における長期総合実習・演習を通して、専門性の高い経験を積み重ね、早い段階から研究に対する意識づけが明確にできる科目を編成しています。

○4年次の専門教育

専門分野の知識や技術を積極的に活用する総合力（探求心、論理的思考、洞察力、および語学力）を養うことができるカリキュラムを編成しています。

入学者の受入れに関する方針（公表方法：本学ホームページ、履修の手引き（シラバス）
<https://www.my-pharm.ac.jp/koho/policy/>）

（概要）

<薬学科のアドミッション・ポリシー（入学者の受入れに関する方針）>

薬学科（六年制）では、医療技術の高度化、医薬分業の進展などに伴う医薬品の適正使用といった社会的要請に的確に応えられる医療の担い手として、自立心旺盛で勉学意欲に溢れ、現場で活躍でき、さらには研究能力を併せ持つ薬剤師の育成を目指しており、「学力の3要素」を含め以下のような資質・能力をもつ学生を求めます。

※学力の3要素とは「知識・技能」「思考力・判断力・表現力」「主体性をもって多様な人々と協働して学ぶ態度（主体性・多様性・協働性）」を指します。

1. 医療に関わる高度な学識を培う意欲と、生命の尊重と人への共感の心をもって人類の健康を守り、社会に貢献する志をもつ人
2. 高等学校の数学、理科（化学、物理、生物）、外国語（英語）の学力が身についているだけでなく、国語、社会、芸術系科目など幅広く学んだ人（知識・技能）
3. 自ら課題を見出すとともに解決方法を思考し、自分の考えを正確に他者に伝える豊かな表現力をもつ人（思考力・判断力・表現力・主体性）
4. 他者への思いやりと協調性を持ち、対話と関わりによって他者と協働してものごとを成し遂げられる人（多様性・協働性）

入学者選抜の基本方針

明治薬科大学薬学部薬学科では、上記のような資質と能力をもつ人材を受け入れるために、下記の方法で選抜を行います。

【学校推薦型選抜（公募制）】

本学を第一進学希望先としている学生の選抜を目的としており、数学、理科（化学）、外

国語（英語）に関して高等学校段階での基礎的学力を修得しているかどうか、本学独自の問題を用いた学力考査により確認します（項目2）。また、調査書では基礎学力が身についているかどうか、学力考査以外の科目の学習状況を確認します（項目2）。志望理由書と推薦書にもとづく面接考査によって、学習に取り組む意欲と社会に貢献する志（項目1）、思考力、判断力ならびに表現力（項目3）、および協働性とコミュニケーション力（項目4）を確認します。

【一般選抜（B方式前期）】

おもに本学を第一進学希望先としている学生の選抜を目的としており、数学、理科（化学）、外国語（英語）に関して高等学校段階での十分な学力を修得しているかどうか、本学独自の問題を用いた学力考査により確認します（項目2）。また、調査書では基礎学力が身についているかどうか、学力考査以外の科目の学習状況を確認します（項目2）。学習に取り組む意欲と社会に貢献する志（項目1）、思考力、判断力ならびに表現力（項目3）、および協働性とコミュニケーション力（項目4）は調査書によって確認します。

【一般選抜（B方式後期）】

化学だけでなく生物に興味がある学生も選抜することを目的としており、理科の配点を英語と数学の1.5倍としています。数学、理科（化学または生物から一科目選択）、外国語（英語）に関して高等学校段階での十分な学力を修得しているかどうか、本学独自の問題を用いた学力考査により確認します（項目2）。また、調査書では基礎学力が身についているかどうか、学力考査以外の科目の学習状況を確認します（項目2）。学習に取り組む意欲と社会に貢献する志（項目1）、思考力、判断力ならびに表現力（項目3）、および協働性とコミュニケーション力（項目4）は調査書によって確認します。

【共通テスト・個別試験併用（C方式）】

特に化学に興味がある学生の選抜を目的としており、数学、理科（物理・化学・生物から1科目）、語学（英語もしくは国語）に関する十分な学力を修得しているかどうかを大学入学共通テストで、化学に関する十分な学力を修得しているかどうかを本学独自の問題で確認します（項目2）。また、調査書では基礎学力が身についているかどうか、学力考査以外の科目の学習状況を確認します（項目2）。学習に取り組む意欲と社会に貢献する志（項目1）、思考力、判断力ならびに表現力（項目3）、および協働性とコミュニケーション力（項目4）は調査書によって確認します。

【共通テスト利用方式（A方式）】

薬学を学ぶ意欲のある学生を全国から選抜することを目的としており、数学、理科（物理・化学・生物から1科目）、外国語（英語）に関して高等学校段階での十分な学力を修得しているかどうか、大学入学共通テストによって確認します（項目2）。また、調査書では基礎学力が身についているかどうか、学力考査以外の科目の学習状況を確認します（項目2）。学習に取り組む意欲と社会に貢献する志（項目1）、思考力、判断力ならびに表現力（項目3）、および協働性とコミュニケーション力（項目4）は調査書によって確認します。

【地域枠選抜】

薬学部が設置されていない、または薬剤師の不足が予想される県の出身者で、大学卒業後に出身県に薬剤師としてUターン就職することを志す学生の選抜を目的としており、数学、理科（物理・化学・生物から1科目）、外国語（英語）に関して高等学校段階での十分な学力を修得しているかどうか、大学入学共通テストによって確認します（項目2）。また、調査書では基礎学力が身についているかどうか、学力考査以外の科目の学習状況を確認します（項目2）。学習に取り組む意欲と社会に貢献する志（項目1）、思考力、判断力ならびに表現力（項目3）、および協働性とコミュニケーション力（項目4）は調査書および志望理由書によって確認します。

<生命創薬科学科のアドミッション・ポリシー（入学者の受入れに関する方針）>

生命創薬科学科（四年制）では、人類の健康福祉へ貢献するために、将来、多様化する創薬モダリティへの深い理解を基盤として製薬関連企業や研究機関等で活躍できる技術者、研究者などの専門職業人の育成を目指して、「学力の3要素」を含め以下のような資質・能力をもつ学生を求めます。

※学力の3要素とは「知識・技能」「思考力・判断力・表現力」「主体性をもって多様な人々と協働して学ぶ態度（主体性・多様性・協働性）」を指します。

1. 「物質、生命、数理、情報」に関する確かな基礎学力と研究能力を身につける意欲に溢れ、創薬科学に関わる高度な学識を培う意欲と、生命の尊重と人への共感の心をもって人類の健康を守り、社会に貢献する志をもつ人
2. 高等学校の数学、理科（化学、物理、生物）、外国語（英語）の学力が身につけているだけでなく、国語、社会、芸術系科目など幅広く学んだ人（知識・技能）
3. 自ら課題を見出すとともに解決方法を思考し、自分の考えを正確に他者に伝える豊かな表現力をもつ人（思考力・判断力・表現力・主体性）
4. 他者への思いやりと協調性をもち、対話と関わりによって他者と協働してものごとを成し遂げられる人（多様性・協働性）

入学者選抜の基本方針

明治薬科大学薬学部生命創薬科学科では、上記のような資質と能力をもつ人材を受け入れるために、下記の方法で選抜を行います。

【学校推薦型選抜（公募制）】

本学を第一進学希望先としている学生の選抜を目的としており、数学、理科（化学）、外国語（英語）に関して高等学校段階での基礎的学力を修得しているかどうか、本学独自の問題を用いた学力考査により確認します（項目2）。また、調査書では基礎学力が身につけているかどうか、学力考査以外の科目の学習状況を確認します（項目2）。志望理由書と推薦書にもとづく面接考査によって、学習に取り組む意欲と社会に貢献する志（項目1）、思考力、判断力ならびに表現力（項目3）、および協働性とコミュニケーション力（項目4）を確認します。

【一般選抜（B方式前期）】

おもに本学を第一進学希望先としている学生の選抜を目的としており、数学、理科（化学）、外国語（英語）に関して高等学校段階での十分な学力を修得しているかどうか、本学独自の問題を用いた学力考査により確認します（項目2）。また、調査書では基礎学力が身につけているかどうか、学力考査以外の科目の学習状況を確認します（項目2）。学習に取り組む意欲と社会に貢献する志（項目1）、思考力、判断力ならびに表現力（項目3）、および協働性とコミュニケーション力（項目4）は調査書によって確認します。

【一般選抜（B方式後期）】

化学だけでなく生物に興味がある学生も選抜することを目的としており、理科の配点を英語と数学の1.5倍としています。数学、理科（化学または生物から一科目選択）、外国語（英語）各科目に関して高等学校段階での十分な学力を修得しているかどうか、本学独自の問題を用いた学力考査により確認します（項目2）。また、調査書では基礎学力が身につけているかどうか、学力考査以外の科目の学習状況を確認します（項目2）。学習に取り組む意欲と社会に貢献する志（項目1）、思考力、判断力ならびに表現力（項目3）、および協働性とコミュニケーション力（項目4）は調査書によって確認します。

【共通テスト・個別試験併用（C方式）】

特に化学に興味がある学生の選抜を目的としており、数学、理科（物理・化学・生物から1科目）、語学（英語もしくは国語）に関する十分な学力を修得しているかどうかを大学入学共通テストで、化学に関する十分な学力を修得しているかどうかを本学独自の問題で確認します（項目2）。また、調査書では基礎学力が身についているかどうか、学力検査以外の科目の学習状況を確認します（項目2）。学習に取り組む意欲と社会に貢献する志（項目1）、思考力、判断力ならびに表現力（項目3）、および協働性とコミュニケーション力（項目4）は調査書によって確認します。

【共通テスト利用方式（A方式）】

創薬科学に関する学問領域を学ぶ意欲のある学生を全国から選抜することを目的としており、数学、理科（物理・化学・生物から1科目）、外国語（英語）に関して高等学校段階での十分な学力を修得しているかどうか、大学入学共通テストによって確認します（項目2）。また、調査書では基礎学力が身についているかどうか、学力検査以外の科目の学習状況を確認します（項目2）。学習に取り組む意欲と社会に貢献する志（項目1）、思考力、判断力ならびに表現力（項目3）、および協働性とコミュニケーション力（項目4）は調査書によって確認します。

②教育研究上の基本組織に関すること

公表方法：本学ホームページ

<https://www.my-pharm.ac.jp/koho/oi/education/>

③教員組織、教員の数並びに各教員が有する学位及び業績に関すること

a. 教員数（本務者）							
学部等の組織の名称	学長・副学長	教授	准教授	講師	助教	助手 その他	計
—	2人	—					2人
	—	32人	20人	26人	12人	3人	93人
	—	人	人	人	人	人	人
b. 教員数（兼務者）							
学長・副学長		学長・副学長以外の教員					計
人		人					人
各教員の有する学位及び業績 （教員データベース等）		公表方法：本学ホームページ https://www.my-pharm.ac.jp/education/kdb/kyoin/kyoin_list.html					
c. FD（ファカルティ・ディベロップメント）の状況（任意記載事項）							

④入学者の数、収容定員及び在学する学生の数、卒業又は修了した者の数並びに進学者数及び就職者数その他進学及び就職等の状況に関すること

a. 入学者の数、収容定員、在学する学生の数等								
学部等名	入学定員 (a)	入学者数 (b)	b/a	収容定員 (c)	在学生数 (d)	d/c	編入学 定員	編入学 者数
薬学部	420人	499人	118.8%	2220人	2391人	107.7%	若干名	2人
	人	人	%	人	人	%	人	人
合計	420人	499人	118.8%	2220人	2391人	107.7%	若干名	2人
(備考)								

b. 卒業生数・修了者数、進学者数、就職者数				
学部等名	卒業生数・修了者数	進学者数	就職者数 (自営業を含む。)	その他
薬学部	350人 (100%)	47人 (13%)	289人 (83%)	14人 (4%)
	人 (100%)	人 (%)	人 (%)	人 (%)
合計	350人 (100%)	47人 (13%)	289人 (83%)	14人 (4%)
(主な進学先・就職先) (任意記載事項)				
(備考)				

c. 修業年限期間内に卒業又は修了する学生の割合、留年者数、中途退学者数（任意記載事項）					
学部等名	入学者数	修業年限期間内 卒業・修了者数	留年者数	中途退学者数	その他
	人 (100%)	人 (%)	人 (%)	人 (%)	人 (%)
	人 (100%)	人 (%)	人 (%)	人 (%)	人 (%)
合計	人 (100%)	人 (%)	人 (%)	人 (%)	人 (%)
(備考)					

⑤授業科目、授業の方法及び内容並びに年間の授業の計画に関すること

<p>(概要)</p> <p>(1) 授業計画の作成過程</p> <p>【科目責任者】</p> <p>a) 教育目的・ディプロマ・ポリシーと関連した教育目的を設定する。</p> <p>b) 学習到達目標・学生が習得する知識や技能の具体的な到達目標を設定する。</p> <p>c) 授業分担者・授業担当者を選定し、授業分担を決定する。</p> <p>d) 授業内容・授業内容、準備学習（予習・復習）、使用教材などを決定する。</p> <p>e) 課題（レポート・試験等）のフィードバック及び成績評価方法の設定基準や配分割合を設定する。成績評価がクラス毎に適正・公平に行われるよう注意する。</p> <p>○上記を行う過程で、必要に応じて授業担当者を招集し協議を行う。</p> <p>【分野責任者】</p> <p>a) 科目責任者が作成した授業計画を主に以下の5点について確認する。</p> <p>①大学の各種ポリシーに基づいた内容であること。</p> <p>②シラバスの必須項目がすべて記載してあること。</p> <p>③授業内容が薬学教育モデル・コアカリキュラムに準拠していること。</p> <p>④授業内容が科目間で過度に重複していないこと。</p> <p>⑤教科書、参考書の指定が適切であること。</p> <p>b) 担当分野の科目間で、授業内容に重複がないかを確認する。</p> <p>○ 授業計画に改善が必要と思われる場合は科目責任者に改善を命じ、必要に応じて科目責任者を招集し協議を行う。</p> <p>※ 完成した全ての科目の授業計画について、教務正副委員長により最終チェックがおこなわれる。</p> <p>(2) 授業計画の作成・公表時期</p> <p>1 1月 : 分野責任者、科目責任者、授業分担者 の決定</p> <p>1 2～2月 : 授業計画の策定と第三者（教務正副委員長）による最終チェック</p> <p>3月 : 授業計画 完成</p> <p>4月 : 各学年オリエンテーションにて冊子体を配布及びホームページ掲載</p>

⑥学修の成果に係る評価及び卒業又は修了の認定に当たっての基準に関すること

(概要)

「教育課程及び履修方法等に関する規程」に基づき、授業計画に設定された成績評価方法を用い、厳格かつ適正に評価している。

○学生からの質問等に関しては、講義中に受け付けるとともに、オフィスアワーも実施して対応している。

○成績評価については、「項目別配点表」を作成して項目別の得点を把握している。

さらに講義資料や試験問題等もエビデンスとして保管している。

○事前実務実習では、学生の自己評価（概略評価）を実施しており、実際の成績と自己評価を比較することにより、項目別の修得状況をより具体的に把握できる仕組みを導入している。卒業研究においても、日々の研究状況、発表会や卒業論文等から、ルーブリック評価により適正に評価している。

なお、レポートや試験などのフィードバック方法や成績評価の方法については、毎年4月に学生に配布している冊子体【履修の手引き（シラバス）】及びホームページ上にて公表している。

あらかじめ設定されている以下の方法でGPAを計算している。なお、GPAについては、冊子体【履修の手引き（シラバス）】及びホームページ上にて公表している。

①それぞれの科目（自由科目、認定科目、履修取消科目を除く）で得られた評価をGP（Grade Point）に置き換え、それぞれの単位数を掛ける。

評価：評点	G P
S：90～100	4.00
A：80～89	3.00
B：70～79	2.00
C：60～69	1.00
D：59以下	0.00
K：欠席	0.00
X：受験資格なし	0.00
N：認定科目	計算対象外

②履修登録された全科目（自由科目、認定科目、履修取消科目を除く）の単位数の合計を求める。

③ $GPA = \frac{\text{①の総和}}{\text{②}}$

※小数点第3位以下は切り捨て、小数点第2位まで表記する。

<薬学科のディプロマ・ポリシー（学位授与方針）>

薬学科の教育目標は、次に示すような能力を備えた医療の担い手としての質の高い薬剤師の養成です。

この目的を達成するために編成されたカリキュラムを履修し、卒業に必要な単位を修得した者に対して、卒業を認定し、「学士（薬学）」の学位を授与します。

<p>1. 医療人としての人間力、倫理観、社会的使命感の形成 医療人としての社会的使命感を強く自覚し、豊かな人間力と倫理観を持って、薬剤師の職能を發揮できる能力を修得している。</p> <p>2. 薬剤師に必要な専門分野の知識・技能・態度の形成 患者の病態に応じた薬物治療を総合的に評価し、安全性・有効性を確保する能力および衛生分野（環境衛生、栄養・食品衛生、公衆衛生）において薬剤師に必要とされる能力を修得している。</p> <p>3. コミュニケーション能力と人間関係構築のための能力の形成 多様な背景を持つ人々との良好な関係を築き、情報を的確に伝達し、豊かな人間関係を構築する能力を有している。</p> <p>4. 多職種で医療連携できる能力の形成 社会において他の医療人と連携し、健康・福祉の維持・増進、公衆衛生の向上に貢献する能力を有している。</p> <p>5. 研究的思考と問題解決能力の形成 医療・薬学に関わる問題を発見し、科学的な探求心を持って論理的・批判的な視点から解決策を提示できる能力を有している。</p> <p>6. 自己研鑽と学ぶ姿勢の形成 医療や薬学の進歩に対応し、自らの適性に応じた領域を選び、持続する向上心と探究心を生涯維持し、薬剤師として生きる姿勢を有している。</p> <p><生命創薬科学科のディプロマ・ポリシー（学位授与方針）></p> <p>将来さまざまな生命関連職種で必要となる次に示すような基本知識・技術・態度を適切に身に付け、卒業に必要な単位を修得した者に対して卒業を認定し、「学士（薬科学）」の学位を授与します。</p> <p>1. 創薬化学分野の基礎学力を身につける。 2. 生命科学分野の基礎学力を身につける。 3. 創薬科学に関わるために必要となる医療薬学の素養を身につける。 4. 幅広い学問分野の素養を身につけ、強い探究心と洞察力を養う。 5. 論理的思考に基づく知識の応用の仕方を学び、発想力と独創性を涵養する。</p>				
学部名	学科名	卒業又は修了に必要な となる単位数	GPA制度の採用 (任意記載事項)	履修単位の登録上限 (任意記載事項)
薬学部	薬学科	186 単位	有・無	単位
	生命創薬科学科	125 単位	有・無	単位
		単位	有・無	単位
		単位	有・無	単位
GPAの活用状況（任意記載事項）		公表方法：		
学生の学修状況に係る参考情報 (任意記載事項)		公表方法：		

⑦校地、校舎等の施設及び設備その他の学生の教育研究環境に関すること

公表方法：本学ホームページで公表（学生生活／キャンパスガイド）
<https://www.my-pharm.ac.jp/koho/guide/guide.html>

⑧授業料、入学金その他の大学等が徴収する費用に関すること

学部名	学科名	授業料 (年間)	入学金	その他	備考 (任意記載事項)
薬学部	薬学科 1年	1,340,000円	400,000円	580,000円	
	薬学科 2～6年	1,340,000円	0円	680,000円	
	生命創薬 科学科 1年	1,100,000円	400,000円	500,000円	
	生命創薬 科学科 2～4年	1,100,000円	0円	500,000円	

⑨大学等が行う学生の修学、進路選択及び心身の健康等に係る支援に関すること

a. 学生の修学に係る支援に関する取組
<p>(概要)</p> <p>オフィスアワー : 学生が予約なしでも授業の質問や相談を受けられるように、教員が予め公表して空けておく時間帯で個別対応を行います。</p> <p>アドバイザー制度 : 学生が学業上の指導や学生生活の上で困ったことがあったときに教員に相談できる制度です。1年次に担当のアドバイザーが決定し、3年次まで、相談に応じています。</p> <p>卒業研究指導教員 : 両学科ともに、4年次(薬学科は4～6年次)には全員が卒業研究を履修するために研究室に配属されます。研究室では教員だけでなく上級生からも、様々なアドバイスを受けることができます。</p> <p>個別学習相談コーナー : 定期試験終了後に質問や相談を受けれるように、学習相談コーナーを設け、再試験に向けて学習支援を行う。</p>
b. 進路選択に係る支援に関する取組
<p>(概要) 学生への進路・就職の指導(サポート)については、進路就職支援委員会とキャリア支援課が中心となり、全面的に支援(バックアップ)している。特に、本学学生には、早期から卒後の進路・就職への意識をもたせるよう努めており、就職説明会(ガイダンス)は低学年から開催し、4・5学年次には、年間7～8回程度開催している。また、卒業研究のため、4年次以降の学生全員を各研究室に配属しており、就職についても、指導教員は学生にとって「最も身近な相談者」として支援している。さらに、進路選択に係る問題等が発生した場合には、進路就職支援委員会で協議後、教授会に報告(審議)し、大学全体の協力が得られよう努め、問題点の早期解決を図っている。</p>
c. 学生の心身の健康等に係る支援に関する取組
<p>(概要) 「健康相談室」に看護師が常駐し、急病の看護、健康相談に応じている。また産業医、心療内科医、カウンセラーが定期的に来校し、希望に応じて診察やカウンセリングを受けることができる体制を整えている。</p>

⑩教育研究活動等の状況についての情報の公表の方法

公表方法：本学ホームページ

<https://www.my-pharm.ac.jp/koho/oi/education/>

備考 この用紙の大きさは、日本産業規格A4とする。

(別紙)

※ この別紙は、更新確認申請書を提出する場合に提出すること。

※ 以下に掲げる人数を記載すべき全ての欄（合計欄を含む。）について、該当する人数が1人以上10人以下の場合には、当該欄に「-」を記載すること。該当する人数が0人の場合には、「0人」と記載すること。

学校コード (13桁)	F113310103554
学校名 (〇〇大学 等)	明治薬科大学
設置者名 (学校法人〇〇学園 等)	学校法人明治薬科大学

1. 前年度の授業料等減免対象者及び給付奨学生の数

		前半期	後半期	年間
支援対象者数 ※括弧内は多子世帯の学生等（内数） ※家計急変による者を除く。		108人 (-) 人	102人 (-) 人	108人 (-) 人
内 訳	第Ⅰ区分	59人	55人	
	(うち多子世帯)	(0人)	(0人)	
	第Ⅱ区分	29人	28人	
	(うち多子世帯)	(0人)	(0人)	
	第Ⅲ区分	15人	16人	
	(うち多子世帯)	(0人)	(0人)	
	第Ⅳ区分(理工農)	0人	0人	
	第Ⅳ区分(多子世帯)	(-) 人	(-) 人	
区分外(多子世帯)		0人	0人	
家計急変による 支援対象者(年間)				(-) 人 (0) 人
合計(年間)				112人 (-) 人
(備考)				
・前半期分：第Ⅲ区分1人は、地域枠入試で入学金のみ対象、後半期は対象外。				

※ 本表において、多子世帯とは大学等における修学の支援に関する法律（令和元年法律第8号）第4条第2項第1号に掲げる授業料等減免対象者をいい、第Ⅰ区分、第Ⅱ区分、第Ⅲ区分、第Ⅳ区分（理工農）とは、それぞれ大学等における修学の支援に関する法律施行令（令和元年政令第49号）第2条第1項第2号イ～ニに掲げる区分をいう。

※ 備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

2. 前年度に授業料等減免対象者としての認定の取消しを受けた者及び給付奨学生認定の取消しを受けた者の数

(1) 偽りその他不正の手段により授業料等減免又は学資支給金の支給を受けたことにより認定の取消しを受けた者の数

年間	0人
----	----

(2) 適格認定における学業成績の判定の結果、学業成績が廃止の区分に該当したことにより認定の取消しを受けた者の数

	右以外の大学等		
	年間	前半期	後半期
修業年限で卒業又は修了できないことが確定	4人	人	人
修得単位数が「廃止」の基準に該当 (単位制によらない専門学校にあっては、履修科目の単位数が廃止の基準に該当)	0人	人	人
出席率が「廃止」の基準に該当又は学修意欲が著しく低い状況	0人	人	人
「警告」の区分に連続して該当 ※「停止」となった場合を除く。	0人	人	人
計	4人	人	人
(備考)			

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

上記の(2)のうち、学業成績が著しく不良であると認められる者であって、当該学業成績が著しく不良であることについて災害、傷病その他やむを得ない事由があると認められず、遑って認定の効力を失った者の数

右以外の大学等		短期大学(修業年限が2年のものに限り、認定専攻科を含む。)、高等専門学校(認定専攻科を含む。)&及び専門学校(修業年限が2年以下のものに限る。)			
年間	0人	前半期	人	後半期	人

(3) 退学又は停学(期間の定めのないもの又は3月以上の期間のものに限る。)の処分を受けたことにより認定の取消しを受けた者の数

退学	1人
3月以上の停学	0人
年間計	1人
(備考)	
自己都合の退学1名、処分という扱いではない。	

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

3. 前年度に授業料等減免対象者としての認定の効力の停止を受けた者及び給付奨学生認定の効力の停止を受けた者の数

(1) 停学（3月未満の期間のものに限る。）又は訓告の処分を受けたことにより認定の効力の停止を受けた者の数

3月未満の停学	0人
訓告	0人
年間計	0人
(備考)	

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

(2) 適格認定における学業成績の判定の結果、停止を受けた者の数

	右以外の大学等	短期大学（修業年限が2年のもの限り、認定専攻科を含む。）、高等専門学校（認定専攻科を含む。）及び専門学校（修業年限が2年以下のものに限る。）	
	年間	前半期	後半期
GPA等が下位4分の1	0人	人	人

4. 適格認定における学業成績の判定の結果、警告を受けた者の数

	右以外の大学等	短期大学（修業年限が2年のもの限り、認定専攻科を含む。）、高等専門学校（認定専攻科を含む。）及び専門学校（修業年限が2年以下のものに限る。）	
	年間	前半期	後半期
修得単位数が「警告」の基準に該当 (単位制によらない専門学校にあつては、履修科目の単位数が警告の基準に該当)	0人	人	人
GPA等が下位4分の1	1人	人	人
出席率が「警告」の基準に該当又は学修意欲が低い状況	0人	人	人
計	1人	人	人
(備考)			

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。